

東京大学教養学部 オルガン演奏会

第129回演奏会

2014年5月19日(月) 18時45分
900番教室(講堂)

Mon. 19 May 6:45 pm Hall No. 900
at Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン: パヴェル・コホウト
Organ: Pavel Kohout

A・ヴィヴァルディ Antonio Vivaldi (1678-1741)
ヴァイオリン協奏曲 ヘ長調 作品3 第3番
(鍵盤編曲: J・S・バッハ)
Concerto per violino in Fa maggiore op. 3, n. 3
(trascritto per tastiera da J. S. Bach, BWV 978)

J・パッヘルベル Johann Pachelbel (1653-1706)
「アポロの六弦琴」より第1アリア
Aria Prima con variazioni I-VI (da Hexachordum Apollinis)

C・P・E・バッハ Carl Philipp Emanuel Bach (1714-1788)
ソナタ イ長調
Sonata A-Dur Wq 70/1, H 133

J・K・ヴァニユハル Jan Křtitel Vaňhal (1739-1813)
前奏曲第1番 ハ長調
Preambulum Nr. 1 C-Dur

J・H・クネヒト Justin Heinrich Knecht (1752-1817)
主題と4つの変奏 ハ長調
Thema e variazioni IV C-Dur

F・A・フーグル Franz Anton Hugl (1706-1745)
フーガ ロ長調
Fuge H-Dur

L・J・A・ルフエビュール＝ヴェリー
Louis James Alfred Lefébure-Wély (1817-1869)
演奏会用ボレロ 作品166
Boléro de concert op. 166

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)
トッカータとフーガ ニ短調
Toccat und Fuge d-Moll BWV 565

第130回演奏会

2014年6月30日(月) 18時45分
900番教室(講堂)

Mon. 30 June 6:45 pm Hall No. 900
at Komaba Campus, The University of Tokyo

オルガン: モニカ・メルツォヴァー
Organ: Monika Melcová

D・ブクステフーデ Dietrich Buxtehude (1637-1707)
第1旋法によるマニフィカト
Magnificat primi toni BuxWV 203

我神より離れじ
Von Gott will ich nicht lassen BuxWV220

シャコンヌ ホ短調
Ciaccona in e BuxWV 160

B・マッテル Bert Matter (1937-)
「若き娘」についての幻想曲
Fantaisie sur „Une jeune fillette”

M・メルツォヴァー Monika Melcová (1974-)
日本の歌曲についての3つの即興曲
3 Improvisations about Japanese songs

J・S・バッハ Johann Sebastian Bach (1685-1750)
前奏曲とフーガ ハ長調
Präludium und Fuge C-dur BWV 545

入場無料(先着500名) 開場18時30分

主催: 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部オルガン委員会

共催: 駒場友の会

Organized by the Organ Committee, College of Arts and Sciences, the University of Tokyo, and in collaboration with the Friends of Komaba

演奏者プロフィール



foto©ivanmaly.cz

パヴェル・コホウト（オルガン）

Pavel Kohout

1976年生まれ。プラハの音楽院及び芸術アカデミー音楽学部を卒業後、アムステルダムで勉学を続け、歴史的オルガンの研究と演奏で著名な専門家ジャック・ヴァン・オールトメルセンに師事。ヨーロッパで数々のコンクールで第一位を受賞し、2000年には、東京武蔵野市で4年に一度開かれる世界で最大の国際オルガン・コンクールで、金賞とJ・S・バッハ賞を獲得。現在、ヨーロッパの新世代のオルガニストを代表する一人。研究活動も合わせて行い、プラハ芸術アカデミーにて、南ドイツ・バロック・オルガン曲の演奏史についての論文で2010年、博士号を受ける。

ソリストとしてのみならず、数々のオーケストラとも共演し、その活躍の舞台は、ヨーロッパ、ロシア、イスラエル、ニュージーランド、シリア、日本、香港、アメリカと世界各地にまたがっている。中でも2008年、オーストラリアの二度目の訪問時にオーケストラ・ヴィクトリアに行った、アレクサンドル・ギルマンの「オルガンと管弦楽のための交響曲第1番」の演奏は好評を博した。演奏家としてだけでなく、チェコ国営ラジオ放送とのオルガン講習会の企画など、教育・啓蒙の面でも積極的に活動。

ソリストとして発表したCDに、「ブラハバロックの黄金時代（Prague—L'âge d'or baroque）」、「ボヘミアの黄金精神（Anima Aurea Bohemiae）」、「天才」J・S・バッハ（Genius Johann Sebastian Bach）」などがあ



モニカ・メルツォヴァー（オルガン）

Monika Melcová

スロヴァキアにて5歳より音楽を学び始める。コンチェ音楽院ののち、ウィーン音楽芸術大学にてミハエル・ラドウスに師事。オーストリア文化教育省より優秀賞を受け、音楽修士号を取得。その後、パリ国立高等音楽院オルガン上級コースに入学を許可され、オリヴィエ・ラトリとミシェル・ブヴァールに師事。メイヤー財団並びにソシエテ・ジェネラル社メセナより支援を受ける。またリヨン国立高等音楽院にて、ロイック・マイエにより即興演奏技法を学ぶ。

2002年9月、札幌コンサートホールKitaraにて専属オルガニスト兼オルガニスト教師に就任。その間、東京サントリーホール、東京メトリポリタンアールスペース、横浜みなとみらいコンサートホール、新潟市民芸術会館、盛岡市民ホール、などで演奏活動を行う。

2006年から2011年まで、9月にはモントルーのガストン・リテーズ音楽院でオルガンクラスの担当。2003年から2011年までパリのサン・マルタン・デ・シャン教会のオルガニストを務めた。2008年より、スペイン、サン＝セバスティアンのパイス・バスコ音楽高等センター（Musikene）で教鞭をとっている。パリノートルダム大聖堂、リスボン大聖堂、マドレーヌ聖堂などヨーロッパ各地の由緒あるオルガンで演奏を続けている。2012年より、世界で権威あるオルガン・コンクールの一つ、シャルトル国際オルガンコンクール審査員。

駒場キャンパスの音楽活動について

1977年に、森泰吉郎氏（森ビル株式会社初代社長）のご寄贈によって緑に囲まれた900番教室（講堂）にパイプオルガンが設置されました。以来、音楽を愛する教職員によるオルガン委員会が中心となって定期的に演奏会が開催され、学生はもとより広く市民の方々にも愛されています。

また、2006年秋には、スタインウェイのフルコンサート・グランドピアノが駒場コミュニケーションプラザ北館2階の音楽実習室に設置されました。音楽実習室では2007年よりオーディションによって選抜された学生による学生選抜

コンサートが開催されるなど、駒場キャンパスの音楽活動の軸となっています。こうした多彩な駒場の音楽活動は「駒場音楽振興基金」（駒場友の会）からの補助によって支えられています。皆様からのご寄付をお寄せくださいますようお願いいたします。

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
オルガン委員会 <http://organ.c.u-tokyo.ac.jp/>
ピアノ委員会 <http://piano.c.u-tokyo.ac.jp/>
Tel. 03-5454-6139（駒場博物館）
Tel. 03-3467-3536（駒場友の会）

